

【気道異物】

① 窒息の発見



- ①「窒息のサイン」に気づく(親指と人差し指で喉をつかむ仕草)
 - ②「喉が詰まったの?」と尋ねます。声が出せず、うなずくようであれば窒息です。
 - ③周囲に大声で助けを求め、傷病者に「わたしが助けます」などこれから救助することを伝えます。
- ※強い咳ができる場合にはまだ窒息には至っておらず、自然に異物が排出されることもあります。救助者は傷病者を注意深く見守ります。咳が弱くなったり、咳が出来なくなった場合には窒息としての迅速な対応が必要です。

② 119番通報



- ・周りに人がいれば、ただちに119番通報を依頼します。
- ・周りに人がいなければ先に異物除去を行います。異物がとれず反応がなくなったら119番通報してください。
- ・周りに人がいない場合で異物除去の方法がわからないときは先に119番通報します。119番通報すると電話を通してあなたが行うべきことを指導してくれますので、落ち着いて指示に従ってください。

反応がある

反応がなくなった

③ 異物除去(背部叩打法→腹部突き上げ法)

心肺蘇生(CPR)

●背部叩打法



【叩打位置】



※まずは、背部叩打法を試みて、効果がなければ腹部突き上げ法を実施する。

- ①傷病者の後方から手のひらの基部(手掌基部)で左右の肩甲骨の中間あたりを力強くたたきます。

※反応がなくなったら心肺蘇生(CPR)へ移行します。

●腹部突き上げ法(妊婦と高度肥満者は×)



【突き上げ位置】



- ①傷病者の後ろにまわり、ウエスト付近に手を回します。
- ②一方の手で臍の位置を確認します。
- ③もう一方の手で握り拳を作って親指側を傷病者の臍の上方でみぞおちの下にあてます。
- ④臍を確認した手で握り拳を握ります。
- ⑤すばやく手前上方に向かって圧迫するように突き上げます。

※反応がなくなったら心肺蘇生(CPR)へ移行します。



※詳細は裏面参照

※ 異物が除去され普段どおりの状態に戻り、特に症状がない場合でも異物除去により内臓などを損傷している可能性がありますので医師の診察を受けてください。

【直接圧迫止血法】

用意する物



【ビニール袋】

- ・止血の際に、救助者が傷病者の血液に触れると、感染症を起こす危険があります。
- ・救助者は感染症から身を守るためにビニール手袋を着用するか、なければビニール袋を手袋の代わりに使用してください。



【タオル】

- ・清潔なタオル、ハンカチ、ガーゼで出血部位を圧迫します。



- ・出血部位を確認しタオルなどを重ねて出血部位に当てその上から強く圧迫します。
- ・両手をつかって挟み込むように圧迫します。
- ・可能なら出血部位を心臓より高い位置にします。

※推奨できない止血法について

- ・細いひもや針金で出血している手足を縛る方法は、血管や神経を痛める危険性があります。

※出血が止まらない時の主な原因

- ・圧迫する力が弱い
- ・タオルから血液がしみ出してくる場合は圧迫部位が出血部位からはずれている場合があります。
- ・タオル全体が血液で濡れてしまった場合には新しいタオルを上から重ねてさらに強い力で圧迫します。